

名戸ヶ谷ビオトープだより

第 87 号 2021 年秋号

2021 年 12 月 3 日発行

名戸ヶ谷ビオトープを育てる会 発行
発行責任者：小笠原 智 Tel 080-2259-4415
<http://nadogaya-biotope.com/>

稲刈りは3日掛かり



名戸小の先生もお手伝いしてくれました

今年も名戸小の稲刈り学習は新型コロナの
為中止になり、会員のみでの作業になりました。
「手賀沼フォーラム協賛市民参加稲刈り」
も中止です。9月11日、12日、15日
の3日間で会員ほか延べ38人（午前中半日）
の参加がありました。うるち稲は一部倒伏も
あり、どろんこを洗い落としながらの作業に
なり時間がかかりました。名戸小の稲刈りは
中止になりましたが、4人の先生方が見学に
来られて「はざがけ」の手伝いをしてくれま
した。お疲れ様でした。（小笠原 智）



母娘で稲刈りに挑戦

秋の生きもの観察も楽しいです

6月の校地外学習に来てくれた土小の児童たちが秋のビオトープも観察しました。今回は回生の里側「ホタル広場」に全員が集合し、開始の挨拶後「生きもの観察」や「ザリガニ釣り」に挑戦しました。残念ながら池の水温が下がりザリガニは釣れませんでした。今年誕生した小さなザリガニは網で捕まえました。シオカラトンボやニホンカナヘビ、ヤモリやドジョウも観察できました。天気も良く楽しい思い出になったことでしょう。皆さんからの「お礼のしおり」はビオトープ掲示板に貼りました。散歩に来られた方々がきれいに書かれたお便りを読んでいます。

(小笠原 智)



ホタル広場に全員集合



はざがけ下の木道で生きもの観察です



掲示板に貼られたきれいな「お礼のしおり」

脱穀作業には名戸小の児童が戻ってきました

田植えや稲刈りはできませんでしたが、5年生全員で脱穀作業に挑戦しました。前日の天候が良くなかったので、会員の脱穀後、木村さん倉庫に稲束を保管しておきました。コロナ対策もあり、1組と2組の時間をずらして足踏み脱穀機と唐箕での作業です。足踏み脱穀機は手と足を同時に使うため、はじめはうまくいきませんでした。すぐに慣れて上手にできました。脱穀した粃を唐箕に入れて風で選別する体験もしました。粃がちゅっとチクチクしましたが楽しくできました。

(小笠原 智)

晩秋のビオトープです

稲作仕事最後の「藁散布」で今年の作業は終了です。今年もご協力頂いた会員にビオトープ米の新米を配布できました。本当にお疲れさまでした。
(小笠原 智)



来年の肥料用に藁を切って散布します



「アオサギ」が畔でイナゴを捕食していました



先生も頑張っています



足と手の同時作業も慣れました

秋のビオトープとバッタ類について

名戸ヶ谷ビオトープを代表するバッタといえば「コバネイナゴ」でしょう。稲穂を刈り採っていると、群れて飛び出し、人々の作業が終わるのを待ち構えるように、サギが近づいて捕食しようとたたずんでいます。



コバネイナゴ

ほかよく見かけるのは「オンブバッタ」、「ショウリョウバッタ」です。オンブバッタは大きい方がメスで、小さなオスがこの時期メスの背中に乗り、交尾の機会をうかがっています。あぜをよく飛び跳ねていますが、田んぼの水面に落ちても上手に泳いでいます。

ショウリョウバッタのメスは7～8cmにもなり、草むらでよく目立ちます。オスは似た姿ですが数センチに満たない体長で、飛ぶときにチキチキチキ…と鳴きます。ショウリョウバッタ・オンブバッタともに緑だけでなく褐色のものもありますが、いずれもオンブバッタは顔の側面にイボ状突起が並ぶことで識別します。

コバネイナゴほど数はいませんが、「ツチイナゴ」も見かけます。ツチイナゴは複眼の下に涙のように流れる形のすじがあり、幼体のときから目立ちます。幼体は緑の体色をしています。成体になると褐色で、とくにメスは7cmほどの大型になり、跳ねる力が強いです。バッタ類では数少ない成虫越冬なので、冬のビオトープ作業の中でも見つかります。

バッタの王様、たとえば「トノサマバッタ」

のイメージがありますが、ビオトープではそれほど見かけません。荒れ地や草原に生息し、よく高く遠く飛ぶので捕まえるのがなかなか難しいです。

姿の似た「クルマバッタ」が出現することがあります。クルマバッタは後ろばねを広げると車状の黒い線があることから識別します。しかし、ここ数年はビオトープで見られないようです。

また、姿も名前も似ていますが褐色のものが多い「クルマバッタモドキ」というバッタがいますが、こちらはビオトープの草地でも見ます。近隣の学校、公園などの小さな草むらでよく群れていて、それほどすばしこくなく、子どもたちが捕まえるのも容易です。



クルマバッタモドキ

同じバッタ目でもキリギリス科になる「クビキリギリス」はとても多く見かけます。触角が長く、頭頂がとがり、アゴが赤く目立ちます。まるで口に血をつけているように見えるので「血吸いバッタ」と呼ぶ地方もあるそうです。このバッタも成虫で越冬するので、春先に「ジーー」と大きな音で鳴くのもよく耳にします。

ほか、「ヤブキリ」「ヒメギス」「ササキリ」などもキリギリスの仲間、ビオトープではほぼ毎年見つかります。触角がずっと長く、お腹がずんぐりしていてぱっと見ではよく似

ています。ヤブキリは体長 5cm を越える大きさのものがいて、「ジリジリジリ…」とせわしなく鳴きます。ササキリ類は 2～3cm ほどの大きさです。

他、いくつかの種類のコオロギなど、夜になって活動する鳴くバッタについては、おおよそ昼間にも目にしにくいです。夕方～暗くなったビオトープは、田んぼやアシ原のゾーンよりも、草むらの上に樹高のある木がはえている一帯で、姿は見えなくても大きな鳴き声がこだましてにぎやかです。

(参考文献:「日本の昆虫 1400」文一総合出版)
(高橋 紀子)



セスジツコムシ

秋の生態調査実施

10月6日(水) 晴れのち曇り・気温 27度
9:00～10:30

朝から日差しもあり 27℃と暑く参加者は松清さん、高橋さん、小笠原さん、倉岡さん、そして私と5名でした。A、Bゾーンを回り観察で鳥、蝶類などがいつもと比べ少ない様でした。又、Aゾーンもち田にミシシippアカミミガメの成体(別名ミドリガメ)がいて、

誰かが困って放したものと思われます。捕獲して南側フェンス水路に放しました。飼育者のモラル低下です。

終了後に当日の生きものを確認し46種となりました。昨年同期とほぼ同じです。

皆様の環境保全活動によりビオトープは維持されています。
(藤平 三郎)



水路の中を網で捕獲中



Bゾーン昆虫類を捕獲中



ナツアカネの交尾中



捕獲したミシシippアカミミガメ



生きものの名前を確認中

月例活動状況のお知らせ（9月から10月まで）

9月19日（日）

台風一過で秋晴れの中、爽やかな風が吹いていました。前日の雨のため日曜日に延期して会員 15 名参加しました。A、B ゾーン ミント、つる草、アメリカセンダングサなどの刈取りとザリガニ釣り場のヨシ刈取り、そして市道両脇を機械による草刈り等できれいにしました。



市道脇の機械で草刈り



B ゾーンの草刈り



ザリガニ釣り場のヨシ刈取り後

10月16日（土）

曇りで作業開始直後は小雨がパラつきました。作業内容は、はざがけパイプの解体と A ゾーンのセイタカアワダチソウの刈取り、木村家側歩道脇の草取りで、参加会員も多く手際よく終えました。終了後は会員手作りの料理を頂きながら歓談しました。（藤平 三郎）



はざがけパイプの解体



セイタカアワダチソウの刈取り



木村家側歩道脇の草刈り

12～2月の活動予定

※11月は例年通り月例活動は休み

- 12月 ● 18日：12月定例活動日・大掃除
- 1月 ● 15日：1月定例活動日
- 第20回定期総会は未定
- 2月 ● 19日：2月定例活動日
- 日本アカガエル卵塊調査日

注）詳細の日時・作業内容は担当幹事からメールにて連絡します。

名戸ヶ谷ビオトープに来てみませんか？

交通：柏駅東口より東武バス（5番乗り場）「名戸ヶ谷行き」「新柏行き」で「名戸ヶ谷病院前」下車
面積：約 4,400 m² 湿性生物：57種 生きもの：161種（内、千葉県指定保護生物 26種）

（2013年、年間を通じて観察した生きものの種類）